

高知県教育委員会 会議録

平成26年1月教育委員協議会

場所：教育センター分館（大講義室）

（1）開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年1月27日（月） 15：00

閉会 平成26年1月27日（月） 17：45

（2）出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員（教育長）	中澤 卓史

（3）高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長（総括）	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	参事兼小中学校課長	永野 隆史
〃	高等学校課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	小野 広明
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	教育政策課チーフ	溝渕 松男（会議録作成）
〃	教育政策課主任指導主事	近森 公夫（会議録作成）

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 （協議内容の説明）

これまで3回の協議会では、高等学校再編振興検討委員会からの報告を受け、県教育委員会としての『県立高等学校再編振興の基本的な考え方』をご協議いただいた。本日は、この『基本的な考え方』を踏まえて、10年間のうちの前期計画をメインとした具体的な『再編振興計画の検討案』について協議をお願いしたい。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○質疑

委員長	本日は、説明していただいた中でも、主に高知中央地区の高知西高校と高知南高校の関係、高吾地区の須崎高校と須崎工業の関係、この2つの関係について、協議していきたい。その他の部分については、今週末の31日（金）に協議をしたい。
委員	これまでに何度も協議し、随分整理された資料1の『基本的な考え方』だが、何度も読み返していると、違和感の残る部分が2カ所ある。1点目は、8Pの⑤のタイトルが非常に長いので、例えば4Pの「学びのセーフティーネットの構築」のような言葉に置き換えてはどうかということ。 2点目は、同じく8Pの⑥で「部活動の充実と教員の指導力の向上」とあり、1ボツに“部活動の充実”のことが書かれている。これを否定するつもりはなく、キャリア教育の面からも重要だと思うが、ここに入っていることで浮いたように感じる。また、教員の指導力の向上とともに書かれることで、このことが部活動の充実に係る話のように捉えられないかと危惧する。タイトルだけでも再検討できないかの提案である。
委員長	⑤は次回までに検討をお願いします。⑥は、⑥を“部活動の充実”とし、⑦として“教員の指導力の向上”としてはいかがか。
教育長 委員長	⑥を“教員の指導力の向上”とし、⑦を“部活動の充実”にしてはどうか。そうした方がいいと思う。
委員長	それでは、資料3の高知市中央部と須崎地区について協議したい。 この案は、“生徒数の減少への対応”、“グローバル人材の育成”、“南海トラフ巨大地震への備え”の大きな3つの対応ということで、高知南高校と高知西高校の統合を検討する案が出てきている。これまでも議論を重ねてきたが、この案について意見を伺いたい。
委員	スーパーグローバルハイスクール（以下、「SGH」とする）や国際バカロレア（以下、「IB」とする）は、すぐに指定校になり得るのか。
事務局	SGHは、今後指定に向けて申請をしていく必要がある。同時にそれに向けた体制づくりをしていかなければならない。
委員 事務局	指定されることがほぼ決まっていないと、このことは書けないのではないか。この4月から5年間のSGHの指定を受ける意気込みで、これから申請する。その後、文科省によるヒアリングを経て、4月当初に認定されるか否かの結果が出る。これから高知西高校とともに資料を作成して、高知県として指定を受けられるように準備していく。
委員	統合の問題と国際バカロレアの指定を受けることは並行して進めるということか。統合するか否かに関わらず、高知西高校でIBの指定が得られるように取り組んでいくという考えなのか。
事務局	SGHは、高知県においても高い志を持ったグローバル人材を育てていくため

	<p>に、指定に向けて申請をする。そしてこの5年間で、学校（生徒・教員）に対してグローバル教育の重要性の位置づけを行いながら、県民に対してもそのPRを行うなどの地固めを行いたい。海外に出て行くようなグローバル人材を育成するためには、国際標準であるIBのディプロマプログラム（以下、「DP」とする）の実施が効果的である。この実現のためには、中学校も含めて6年間の学習期間が必要になると考えている。</p> <p>高知南高校については、生徒減少期において高知市内の全体の定員を一律に引き下げるのではなく、一定の学校規模を維持することを踏まえて学校の配置を考えた時に、一定の規模を維持した学校にするために高知南高校を高知西高校に統合させる考え方である。高知西高校はSGHとして取り組み、最終的にはIB認定校となるように進めていく。</p>
委員	高知西高校が、SGHとして確実に指定される保証が無い時点で、書きこむことの心配はないのか。
事務局	指定されるように全力で取り組んでいくが、国の指定に関わらず、この理念は高知西高校に取り込んでいきたい。指定が取れなくても県教委としては、高知西高校がSGHの理念をもって取り組んでいけるように体制づくりを支援していく。
委員	IBの認定は、現体制のもとで動いていくということと、認定を受けてそれを充実したものにするために高知西中学校を併設していこうとする話であると理解してよいか。
事務局	そのとおり。まずは、高知西高校でSGHの指定に向けて、グローバル人材育成のための高校3年間のカリキュラムをまずは編成し、その中で海外の姉妹校や県内外の大学の様々な支援を受けながら、グローバル人材の元になる基本的な能力を育成していく。それが確立できたところで、IBのDP資格が得られるように挑戦していこうとする流れである。DPの資格取得のためには、高い英語の活用力が求められることから、中高6年間を見据えたカリキュラムを編成していくということである。
委員長	日本全体でも取り組むだろうが、高知県としてグローバル人材の育成は必ず取り組んでいく。その先導的な役割を果たしていく学校が高知西高校であり、同時にそれが同校の特色でもあると。
事務局	別途に国のSGHの指定事業があり、指定を受けることで、この取組がより効果的に推進されることから、指定に向けて活動するという理解でよいか。
委員	そのとおり。
事務局	SGH指定校は、文科省が平成26年度に指定するとあるが、具体的にいつからになるのか。
委員	平成26年の4月から5年間の指定である。申請後、ヒアリングを経て4月当初に指定されることになる。
事務局	“文科省はIB認定校を5年間で200校に増やす計画”とあるが、IBは文科省が認定するものではないと思うが、この“増やす計画”の意図は何か。SGH事業で指定した学校をIB認定校にチャレンジさせる意図なのか。

事務局	<p>国としては、グローバル人材の育成を目指してSGHを全国で50校を指定することとしている。その中の1つの手法として、国際標準のIBを取り入れて実施することもあり得るとしているが、必ずしもIBの認定が先にある、SGHの指定があるということではない。SGHは、IBの認定が無くても指定を受けることができる。高知県としては、国際標準のIBが目指す生徒像と、本県がキャリア教育で育成しようとしている人物像が全く同じであることから、IBの国際標準でしっかり人材を育成したいと考えている。海外にも出て行くことができるような人材を高知県から輩出するために、SGHの指定の先にIBの認定を見据えている。</p>
委員	<p>高知県はSGHの指定を受けて、IBの認定を受けたいとするものだろうが、IBの認定は開講しないと受けられないのではないかと。</p>
事務局	<p>IB機構とのやりとりによって条件が満たされれば、認定される。SGHは文科省のグローバル人材を育成するための事業で、県と文科省とのやりとり後の審査によって指定されるか否かが決定される。</p> <p>文科省としては、IBの考え方が国の教育方針である学習指導要領の方針とも合致しているので、全国の高等学校（私立も含めて）に、IB認定を目指してもらいたいとするスタンスである。</p> <p>IBは、基本的には英語・スペイン語のどちらかで行うものだが、文科省としては英語と日本語の両方の言語を使用して行うことができるようにするので、取り入れて欲しいと働きかけをしている。実際文科省は、SGH事業以外に昨年度からIBの認定を目指す研究指定校を5校指定し、研究を進めている。</p>
委員	<p>県として、今年4月にSGHの指定を受けるとして、IBの認定に向けてどのようなスケジュール感を持っているのか。</p>
事務局	<p>高知西中学校に入学した生徒が、中学校を卒業し、高知西高校に進学するタイミングでのIB導入を考えており、平成33年度になる。</p>
委員	<p>高知西中学校では、IBのような取組（学習）は行わないのか。</p>
事務局	<p>IBには、中学校の年代に対応したMYP（前期中等教育課程）のプログラムがあるので、これらを活用しながらの準備段階としたい。また、高校3年生で、DPの資格を得るためには高い英語活用能力が必要になるので、中学校段階で語学力を鍛えてから高校に入学させたい。</p>
委員	<p>資料1の中央部の学校規模の推移の表では、高知南高校がそのまま存続すると5学級になるとの推計値だが、統合を進めることになった時に、この数字がどのように変わってくるのか。他の学校を減らさなくて済むという想定なのか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
委員	<p>高知市内校では、6から8学級を維持したいとのことだったが、高知南高校の5学級分をどのように配分して維持するか案があるのか。</p>
事務局	<p>平成34年度の高知南高校の入学生の推計は181名となっているが、これが周辺校に流れるとすれば、現状と同じ学校規模が維持されると想定している。</p>
委員	<p>平成34年度の推計値の隣に、具体的に6から8学級の案がどのように実現されるかの案があると分かりやすい。</p>

事務局	その推計値の数値を持ち合わせていないが、平成 25 年度の数値に戻ると想定している。
委員	高知南高校以外では、平成 25 年度の学級数を維持できるということか。
事務局	そのとおり。 入学定員は毎年、過去の動向等を見ながら教育委員会で決定しているが、10 年後の推計を出してもそのとおりにとはならない可能性も大きい。ただし、大枠として、平成 25 年度と同等の推計になると思われる。
委員長	この推計は 1 つの目安だと思うが、経験上、推計値以上に高知市に流れてくる生徒が多く、学級数は減らないと思っている。 この再編振興計画では、学級数の減少を避けたい思いはあるものの、生徒減少の流れは止めにくいこともある。
教育長	今の話からすると、イメージとしては、高知南高校は普通高校なので、専門高校にはあまり影響がなく、普通科高校に影響があると思われ、生徒数の減少をより抑えることになると思う。
委員長	大学への進学対策は、普通科での取組が中心になっているが、専門高校でも進学生徒が増えており、普通科以外でも進学が可能であるとの認識が深まると、今後の中学生の希望進路は多様化していくと思われる。 高知西中学校では 2 学級 80 名の定員の案だが、高知西高校に入学してから、グローバル教育科（仮称）に入ることは可能なのか。
事務局	基本的には、高知西中学校から高知西高校のグローバル教育科（仮称）に進学してもらおうが、当然進路変更はあると思われるので、若干名だが普通科への変更、及び高校入学者がグローバル教育科に入ることがあると考えている。
委員長	中等教育学校的な学校になる可能性があるのか。
事務局	今までの日本の教育内容とは大きく異なっており、生徒が主体的に考え、発言したりする授業が多くなり、高校では受ける授業の半分は英語による授業になるため、そういった素地のある生徒でないと卒業まで耐えられないことが予想される。その意味からも 6 年間をかけての教育が基本になる。
委員長	高知西高校の 7 学級のうち、高校からの 5 学級の普通科の入学生たちには、グローバル人材育成の理念を踏まえた教育活動が展開されるのか。
事務局	基本的にはおっしゃるとおりの教育活動になる。中学校からの内進生は、グローバル教育科に上がっていくが、高校からの入学生についても、コミュニケーション能力育成の充実や体験活動、課題研究などベースとなる取組は、時間数は異なってもグローバル人材の育成を意識しながら推進していく。その意味でも S G H により、その元を構築したいと考えている。
委員長	グローバル教育科と普通科の両科で展開できるような教育も行っていきたい。 グローバル人材の育成が学校の特色としてあり、その中でグローバル教育科はさらに深くその理念を追求していこうとする科であるとの認識でよいか。
事務局	そのような中高の学校を作っていきたい。
委員長	国の指定に向けた申請はいつ頃か。
事務局	2 月の中旬頃に申請する。

委員長	今はある程度、準備に入っていると思うが、申請を出せる状態にあるのか、それとも、申請にあたって改善等が必要な状態にあるのか。
事務局	高知西高校とは、昨年から打ち合わせをしており、現在の体制に加えて、主に課題研究について全学的な取組を入れていこうとしている段階である。 指定に向けた話をする前から、学校では申請の準備をしており、その流れで準備を進めて行くこととしている。また、国外の大学と連携を進めている国内の大学との連携も重要であるということで、すでに大阪大学などには話を持っていき、快諾を得ている。大阪大学は、旧帝大として唯一外国語学部も持っている大学であるので、そういった優位性もあると思われる。もちろん、県内の高知大学や工科大学との連携も進めていく。以上のことから、申請できる体制にあると言える。
委員	繰り返しになるが、SGHに指定されることと、IBに認定されることと、中学校を併設することの関係性がよく分からない。どういう関係があるのか。
事務局	まずIBは、IB機構が示した年間計画（シラバス）に基づいた授業ができる環境が整えられると申請し、審査を受けることになる。この審査結果によって認定されるか否かが決定する。 IB認定校では、全て英語で授業を行わなければならないが、平成28年からは半分の授業を日本語でできるようになるので、そのカリキュラムを今から研究し、グローバル教育科（仮称）の開設とともにIBの示すプログラムで授業ができる環境をまず整える。IB機構は、年間計画を公開しており、認定を受けなくてもそのカリキュラムを入手して実際に取り組むことは可能であるので、新しい併設中学校が開設されると同時に、そのカリキュラムに沿った教育活動を中学校でどのように展開するかを3年程度研究したうえで始めていく。さらに平成33年度からは、高校がIBの認定校になるように申請していく流れである。その素地を作るために国のSGHの指定事業を利用するということ。
委員	IBのDP資格を得るためには高校の3年間では不足し、中学校段階からその理念に沿った教育を行うなど、6年計画で実施しないと資格が得られるような人材に育てることが難しいために、併設中学校が必要ということか。
事務局	そのとおり。IBを行うためには、ディスカッションに慣れるなど、一定の時間を必要とする教育課題があり、高校の2・3年の2年間だけで一気にその力を身に付けるのは難しいと考えている。 そのため、併設の高知西中学校でその素地を身に付けた生徒が高校に入学して、最後の2年間でDP資格を得られるようにしていきたい。段階を踏んで進んでいくので、生徒にとって少しでも負担が少なく学ぶことができると考えている。
教育長	SGHは、SGHの指定を受けることでSGHになるということではなく、SGH化をするために国が支援をしてくれるもの。 そのためのプログラムは我々が作るが、どのような手段で、どのように国際化した学校をつくるという申請に対して、国が支援をしてくれるその仕組みのこ

	<p>とをSGHと言っている。</p> <p>平成26年度は50校で、平成27年度も同程度の指定があるのではないかと想定している。文科省としては、このような指定事業を行いながら、IBの認定を受けられるような学校を増やそうとしている。</p> <p>場合によっては、IB認定に向けて取り組んでいく過程で、別枠で何らかの支援があるかもしれないし、SGHの事業内でIB認定に向けた取組を促すような指示があるかもしれない。</p> <p>文科省が政策誘導している事業がSGHで、IBはすでに存在している機構で、最終的にはそこを目指そうとしている。そのためには、前段としてSGHの指定を受けて、財政支援を受けながらIB認定に向けた学校づくりを行うと推進しやすいということ。</p> <p>同時にIBの認定を受けるためには、併設した中学校を持っていた方が認定を得やすいし、持っていないと認定されにくいようなレベルの高い話である。</p>
委員	SGHの指定は、高校が対象ではないのか。その意味で、中学校から行う理由は何か。
事務局	IBのDP資格に向けた取組を高校2・3年で行うために、中学校1年生から段階的に取り組んでいかなければならないと考えている。
委員長	文科省のSGH事業は、高校もしくは併設型中高一貫校、中等教育学校を対象とした指定事業としている。
教育長	文科省は、当初100校と言っていたのではないか。
委員長	SGHは、平成26年度に100校を指定したいと財務省に予算要求したが、50校になっている。残りは、平成27年度に指定する可能性が高いと思われる。
委員長	効果が無いと判断されて縮小されたわけではなく、予算規模の関係で翌年度に回されたのではないかと推測か。
事務局	そのとおり。平成26年度の概算要求時は100校の指定で、1校当たり2,600万円だったが、財務省協議により、50校で1校あたり1,600万円まで縮小されている。
委員	SGH指定校という資格があるわけではなく、指定を受けると財政支援や人材支援が得られやすいことから、来年度からの指定に向けて申請するが、指定されなくても再来年度にも申請し、指定を受ける否かに関わらず、高知西高校では、SGHとして取り組んでいくという解釈でよいか。
事務局	指定される否かに関わらず、現在考えているカリキュラムなどは、推進していく予定である。
委員	これを高知西高校の特色として打ち出していくのか。
事務局	そのとおり。
委員	この取組は、高知西高校が先導的に進めていくが、そのノウハウなどは他の県立高校や中学校などにも広げていかなければならず、高知西高校だけの財産にするつもりはない。
教育長	IBはレベルが高く、認定される学校にするためには、教員のスキルを高めなければならない、人材育成から取り組む必要がある。すぐにできることではない

	<p>ので、SGHの指定を受けながら先を見据えて人材育成にも取り組みたいと考えている。</p>
委員	<p>平成30年度に併設中学校を開設としているが、残り4年である。4年間で人材育成を含めてできるものか。</p>
事務局	<p>他県では、すでにIBのカリキュラムを取り入れている学校もあるので、教員が出向き、直に学ぶ機会を設けるなどして間に合わせたい。</p> <p>また、IBは英語以外の教科も英語で授業を行う必要があり、そういったことができる人材を採用することも含め、教員の質が一番の課題になるので、来年度から計画的に対応していきたい。</p>
委員長	<p>現在のALTの制度では、外国人教師は助手という立場なのか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
委員長	<p>この制度は、国際化が求められている中で変わらないのか。</p>
事務局	<p>変わっておらず、国際自治体国際化協会に依頼して、海外からJETプログラムに手を挙げていただいた方をALTとして雇っている。</p>
委員長	<p>日本人が英語で授業をし、外国人が英語で授業をするという両方のパターンがあると思う。その時には、外国人教師には誰か助手を付けて授業を行うことになるのか。</p>
事務局	<p>グローバル人材を育成するためには、各国の色々な考え方を学ぶ必要もあり、入っていただく全ての外国人教員ではないが、一部は県立高校の教員として採用していかなければならないと考えている。</p>
委員長	<p>人件費を措置してくれるような国の制度はあるのか。</p>
事務局	<p>現状ではないので、県の単独予算で雇用しなければならない。</p>
教育長	<p>国は盛んに国際化・グローバル人材の育成を言っており、一定の財政支援策が出てこないと整合性がとれないと思う。同時に要望もしていく。</p> <p>人件費の話が出たが、外部の人材を活用する、内部の人材を育成する、外部の人材をこちらに取り込むことを考えていかなければならない。</p>
事務局	<p>高知西高校は、オーストラリアのザフレンズ校と姉妹校提携しており、その数学の先生に来てもらい、授業をしていただくような話も進んでいるとのことである。姉妹校として20年の歴史もあることから、人事交流ができる可能性もある。</p> <p>また、この姉妹校にはIBを行っているスクールもあるので、こちらから教員を派遣し、英語で授業をする経験を積んでもらうことも必要だと考えている。すでに校長どうしの話は進んでいるそうである。</p> <p>国内だけでの人材育成には限りがあるので、こうした強みを生かす人材育成の在り方も検討していきたい。</p>
委員	<p>元々、併設型の中高一貫校は、進学拠点校としていくとの意図があったと思うが、この計画では、安芸と中村はこれまでどおりとし、高知市中心部は“英語”、“グローバル人材の育成”の中高一貫校を作ろうとしている。その意図をきちんと説明しないとといえないと思う。</p> <p>また、生徒側から見ると、中学校からIBのDPを目指す生徒が集まるのか、</p>

	<p>どうかの問題もある。</p> <p>これまで高知西高校は、英語科の40名の定員で、「グローバルリーダーへの成長を促すことを目標とし・・・」と目標が書かれている。新しい計画案で、グローバル人材の育成と言っても、グローバル教育科だけの話ではないかと思われるので、それぞれどんな教育をするのかが整理されていないといけない。</p> <p>今までの西高校とどう違うのか、どういう学校づくりをしていくのかを分かりやすく説明していかないと、焦点がぼけてしまい、IB校と言っても多くの人の理解は得られないと思う。</p> <p>グローバル人材を育成するという理念は非常にいいと思うが、分かりにくい。これまでの英語科がグローバル教育科に変わっただけのような印象を受けることがないようにしなければならない。</p> <p>併設型の中高一貫校の建学時には、進学校を作るのではないとしてスタートしている。ただ、そうは言いながら、安芸と中村は、地域に私立高校がなく、進学への思いが強い学校になってきたと言える。高知南高校は、市内に私立の進学校もあることから、そのようなことになっていない。</p> <p>この度、作ろうとしている学校とは、大きく特色が異なっている。ただ、委員がおっしゃるように、IBは一般の方にとって分かりづらいと思う。SGHも含めて、分かりやすく書かなければならない。</p> <p>また、高知西高校の新しく目指すものと現在の違いについても、分かりやすく書かなければならない。今までにないものをやろうとしており、一般の方に分かるように説明する必要がある。</p>
教育長	<p>現在、高知西高校の特色に書かれてあることと、新しく目指す学校の特色はあまり変わらないように見える。</p>
委員	<p>IBは特に分からないと思うが、最も大きなハードルは授業が英語であるということと捉えてよいか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
委員	<p>現在の高校入学時の英語力で、英語以外の教科を英語による授業を受けることは不可能だと思う。それに対応するように、中学校で英語力を鍛えるということによいか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
委員長	<p>入学時に出口がこうなるということも明らかにする必要がある。</p>
事務局	<p>どのような教育内容になるのかのPRが、プログラムを作ると同時に来年度からの高知西高校で取組の大きな柱になる。中学校を開設時には、どのようなことを学び、どのような目標に向かっていくのかが、小学生に分かるようにしなければならない。</p>
委員長	<p>高知南中・高校が募集停止になるまでの期間が長いですが、これが長すぎるという意見もあると思うが、いかがか。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、募集停止が決まっている状態で、志願者が集まりにくいのではないかといったことが想定されるが、一方で、現在の在来生や来年度に入学する生徒にとっては、まだこの計画が分かっていない段階だったので、中・高</p>

教育長	<p>のそれぞれ3年間は下級生がきちんとおり、勉強面だけでなく部活動もこれまでどおり行うことができる状態を保障することを考えての計画である。</p> <p>その後については、卒業まで教育の体制を維持していくことを含めて将来の計画をきちんと示したうえで、入学してくる生徒には理解していただけるようにしたい。それぞれにきちんと対応していくためにも、このような計画にならざるを得ず、早い方がいいとは思いますが、やむを得ないと考えている。</p> <p>普通の高校と違い、中学校を併設していることや、中学校の校舎を建設しなければならないこともあり、統合までの期間が長くなっている。</p> <p>また現在入学している生徒には影響が無いように教育を受けさせなければならない。確かに決定してからが長いので、この間に腰を据えて、我々も学校を支援していかなければならないと考えている。</p>
委員長	<p>統合決定後に入学してくる生徒の気持ちが途切れないような策を考えたい。</p> <p>学級が減ってくれば教員の数も減るが、手が足りないという状況は避けなければならない。</p>
教育長	<p>高知県では、このような募集停止・統合をしたような経験はないのではないかと。高知市中央部を縮小したことは初めてである。これまで過疎地域において、生徒の減少に合わせて募集停止・統合をしてきたが、それだけでは収まらず高知市中央部まで対応しなければならない時期が来てしまっている。そこでこのような案が出てきている。</p>
委員	<p>最終的には、1学年しかいなくなる状況を踏まえて、入学する生徒がいるのかという心配と同時に学校が成り立っていくのかという心配もある。</p>
教育長	<p>これまでに募集停止した学校は、元々規模の小さな学校で、最後は1学年のみとなった。そうでありながら、学校運営はうまくやったと思っている。生徒たちも最後まで学校との関係を保ちながら、学校に親しんで勉学に励んだと評価している。ただ今回は、規模が違うので対応が違うかもしれないが、やればできると思っている。</p>
委員長	<p>今年も大月分校が閉校になるが、その教員を見ていると、残りを最後まで大事に育てていこうとする姿が見える。進路保障などについても一生懸命やっている。</p> <p>高知南中学校・高校の場合は、今後どのようになるか不明な部分もあるが、かなりきめ細かな対応が求められる。</p>
委員	<p>高知南中学校を高知西中学校に統合していくイメージで捉えているが、高知西中学校は、今までの高知南中学校とは目的や在り方が明確に違ってきている。地域的にも高知南中学校の今の生徒のエリアと高知西中学校の生徒が来るだろうと思われるエリアは異なっている。</p> <p>現在高知南中学校を目指している子どもたちが、今後方向を変えていくための対応として、市立の中学校にもっと頑張ってもらいたいと思うが、中高一貫校でやってきたノウハウを市立中学校用に置き換えてうまく生かしながらやってもらいたい。県立中学校から高知市立の中学校に、どのようなノウハウや支援策を出していくのかも考えないといけない。</p>

教育長	<p>現在、高知南中学校に来ているような生徒が高知西中学校になった時に、高知西中学校へ行く生徒もわずかはいらるだろうし、私立や国立に行く生徒もいると思われるが、市立中学校に行く生徒の割合が最も多いと思われる。</p> <p>どちらかと言えば、高知南中学校は地域性のある学校だと思う。公立中学校へ行くとするれば、高知市南部の中学校へ進学する生徒が増えるのではないかと考えている。その時に公立中学校で、きちんと教育してもらえるように高知市教育委員会と協議をしながら、県教委としても支援策を考えていかないといけない。具体的に何をしていくかの協議はまだ進んでいないが、県教委としては何らかの対応をしていかなければならないと考えている。</p>
委員長	<p>今後も細かい詰めは必要だが、方向性としては生徒減少への対応、津波対策、グローバル人材の育成の3つの視点で、高知南中学校・高校が、高知西中学校・高校へ統合していくわけだが、この方向性でよいか。</p> <p>他に高知西中学校の一貫校としての有り様を県民の皆様に分かりやすくお伝えする方法を検討していただきたい。よろしいだろうか。</p>
各委員	(異議なし)
委員長	それでは、休憩に入る。
委員	<p>須崎地区について</p> <p>“平成31年度を目途に統合”という具体的な数字は、どういう経緯でできたものか。</p>
事務局	<p>須崎高校の今春の入学生が卒業した後の平成29年度に普通科に学科改編を行い、全学年が普通科になる年度が31年度である。また、須崎工業高校の環境整備にかかる時間も必要になる。</p>
委員	<p>基本的には学科改編が完了する年度を待つということか。</p>
教育長	<p>ハード面の整備も一定必要である。校舎の改築も必要だろうし、現在学校へ登る道が非常に狭いことから、現在の反対側の新しい道路から新たな進入路を付けようと考えている。</p> <p>須崎の津波被害は相当大きいことが予想されているが、高台の改修が進んでいないことに加え、当該地域で高台にある公共施設は須崎工業高校のみであることから、多くの市民が避難してくると思われる。地権者との相談をしなければならぬが、もう1つ道を付けなければならぬと思っている。</p>
委員長	<p>現在の状態では校舎を増築する敷地に余裕が無いのではないかと。3学級増えるとなると新たな校舎が必要だと思う。</p>
事務局	<p>工業科の実習棟などは残して、一定の増改築が必要だと考えている。</p>
教育長	<p>生徒が減ってきたからと言って、そこへ押し込むようなことはしたくない。教育環境を整えるのは、我々の仕事である。</p>
委員	<p>須崎工業高校を3学科にするとのことだが、どの科を無くすのかなどの案はあるのか。</p>
事務局	<p>確定しているものはない。地域性のことや今後の生徒の動向にもよる。</p>
委員	<p>平成15年度と25年度では定員が増えているが、科が増えたのか。</p>

事務局	久礼分校の閉校にあたって、それを受け継ぐ科として、須崎工業高校にユニバーサルデザイン科を設置した。
教育長	久礼分校の閉校の際に、女生徒も行きやすい学科を設置するという狙いもあった。
委員長	ユニバーサルデザイン科の入学者数の状況はどうか。
事務局	25年度で20名、24年度18名、23年度が21名、22年度が30名となっている。
委員長	ユニバーサルデザイン科は、女子生徒が多いのか。
事務局	1年生は男子8名、女子14名。2年生は男子7名、女子10名。3年生は男子1名、女子14名と女子生徒が多くなっている。
教育長	ユニバーサルデザイン科の志願者より、造船科の志願者が少なくなっている。須崎工業高校のアイデンティティを語る場合、造船科を抜きにしては語れない。当該科は就職率も良いが、実際の志願者は少ない。
委員長	学校では検討を始めているのか、それとも今からか。
事務局	学校の改編については、これからになる。
委員	須崎高校は、低い所にあるので通学は楽だが、須崎工業高校は辛いと思う。実際、須崎工業高校の生徒は自転車で登っているのか。
事務局	途中に自転車置き場を構えており、そこから徒歩で学校に向かっている。
委員長	原付自転車での通学を許可しているのか。
事務局	許可している。
委員	それ以外に学校に通うための公共交通機関はあるのか。
事務局	JR大間駅で下車し、そこから徒歩になる。
委員	大間駅からは、結構な距離があると思うが、何か措置することはできないのか。
教育長	徒歩で15分位なので、健康のためにも徒歩が望ましいのではないかと。
委員	私が気にしているのは、この地域には他に公共交通がないために、例えば窪川から須崎へ来る場合、JRだと本数が少ないので、どうせなら高知市内へ出た方がいいのではないかと考える生徒が増えそうだとということである。そういったことも高校の魅力が落ちる原因の1つではないだろうか。
教育長	公共交通が無い場合は、スクールバスのようなものをイメージすればよいのか。
委員	そのとおり。ある程度の地域からは、須崎高校・須崎工業に通いやすい環境を作ってやると、少しは違って来るかもしれない。
委員長	現在の須崎高校は、駅まで何分くらいかかるのか。
事務局	新庄駅から徒歩10分である。 須崎工業の生徒は、279名が在籍しており、列車が59名、自転車が82名、原付自転車が25名、後は自転車と列車の乗継が68名となっている。 一方、須崎高校の生徒は、259名が在籍しており、自転車が122名、列車が53名、バスが35名、原付自転車が32名、自転車と列車の乗継ぎが29名となっている。
委員長	JR沿線の生徒は高知市に行くが、浦の内など沿線から離れた地域の生徒が来ているのかもしれない。

事務局	須崎高校は3学年合わせて、朝ヶ丘中学校から51名、須崎中学校から64名、浦の内中学校から18名、葉山中中学校から36名、東津野中学校から12名、久礼中学校から20名、窪川中学校から45名が来ている。
委員長	万遍なく来ているようだ。
委員	現状として、須崎高校と須崎工業との学校間の交流はあるのか。
事務局	大きい所では、防災教育の分野において地域貢献の関わりがあるが、教育内容で重なっている部分はない。
委員	須崎市や津野町、中土佐町など限られた自治体の中で、高校進学者の7割が中学校は同じで、高校で2手に分かれるようなイメージを持つが、これが統合されると、中学校・高校が同じということになるわけだ。
委員長	全国的に工業高校と普通高校が一緒になったような学校はあるか。
事務局	徳島県で、水産高校と工業高校が一緒になった例がある。
委員長	これだけ生徒数が減ってくれば、これもやむを得ない措置だと思う。ただし、問題は教育効果をどう上げるかである。
委員	双方の学校とも地元では思い入れの強い学校同士だと思うが、それぞれの学校に対する住民の意識について、どのような認識をしているのか。
事務局	須崎工業高校の歴史が若干長く、造船という地域の産業ともつながりがあることから、どちらかという地元への思いも強いと思われるが、須崎高校もかつては、高吾地区の進学拠点校でもあり、大学進学に向けた指導の面などで一定の信頼や期待もあり、それぞれである。
委員	募集定員も半々であれば、校名をどのように考えているのか。
事務局	これからの課題である。 工業高校という名前によって求人票をいただけることもあり、それが新しい学校になった際、名前だけを見て、工業科があると分かっていたか否かの懸念があるとのこと。それだけに、名前についてはしっかり議論して欲しいとのことである。
委員長	地元住民の反応はどうか。
事務局	本日オープンになるので把握できていない。
教育長	地元の人からの情報によると、どちらかと言うと須崎高校よりも須崎工業高校に対する思い入れの強い方のほうが多いと聞いている。今後、校名についても“工業”の名が欲しいというような要望は出てくると思う。
委員	甲子園の出場校でも、以前の“…商業”、“…実業”から、普通校のような名前に変わっている学校があるが、あれらはどのような経緯で変わっているのか。
委員長	戦後に高校教育ができた時に、1つの学校に普通科や工業科、商業科がある総合制という制度を敷いた。当時はそのような学校が数多くあったが、それぞれの科の性格が違うために運営が困難になっていった。それが生徒数の増加に合わせてそれぞれの科が独立して、単科の学校になった経緯がある。戦後の学制改革では、この総合制の他、小学区制、男女共学の3原則に沿った新制高等学校の設置が進められた。

<p>事務局長</p>	<p>生徒が減少する中で、現在は逆に、独立した科を統合していかなくてはならなくなっている。</p> <p>須崎工業高校と須崎高校を統合する場合には、かなり気を付けて学校運営をしなければならぬ。</p> <p>以前に勤務した安芸高校には、当時普通科と家政科があったが、生徒のレベルや科の方向性等が全く違っていた。そうした時に教員は、両方の科を適応させようとするが、そうすると両科が中途半端になってしまう。例えば、工業と商業、普通科が一緒になる時には、それぞれの特色を存分に生かすことができる形にしなければならない。場合によっては、1つの学校であるが、2つの学校があるような運営をしなければならないこともあると思われる。</p> <p>工業高校は、専門の工業科教員は充実しているが、普通科教員が少ない現実がある。最近では、工業高校の進学者が増えてきており、そこへ普通科高校が入り普通科教員が増えることで、工業科の生徒への進学対策ができるようになるなどのメリットもあると思う。</p> <p>県内における工業高校等からの進学者はこれからも増えてくると思うが、専門高校における進学対策は、まだまだ不十分ではないか。</p> <p>例えば、高知工業高校では生徒数が多いことから、進学に重点を置いたコースを敷くことができているが、須崎工業高校では、生徒数のことや今はまだ就職が多いことがあり、その意味では体制は不十分である。普通科の教員が増えることで、高知工業高校のようなシフトを組むことができると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>高知南中・高校や須崎の議論は、南海トラフ地震への備えということで、ある一定仕方の無い面もあると思うが、そのような中で学校運営の考え方をきちんとしていなければならない。</p> <p>また、高知南高校と須崎高校は南海トラフ巨大地震への対策が明確になっているが、他の安芸高校や清水高校、宿毛高校、海洋高校は今後検討となっている。これらの学校には、自校がどうなるのかと不安にさせていると思うが、今後のスケジュール感はどうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>関係するところと話をしていくが、いつまでといった目途が立てられない状態である。タイミングを見て対策を立てたいが、移転等の場所も無く、相手がいることから、“検討する”に留めている。</p> <p>津波対策は、“津波対策だから移転する”という考え方ではなく、統合する時に、“津波のことも含めて統合する”という考え方である。</p> <p>ひとまず、命は守ることができる対策は立てている。ただその際に、高知南中学校・高校では、長期浸水し学校がしばらく再開できない状態になる。須崎高校も津波が高いことから同じことになると思われる。それを踏まえて、統合の案を出しているが、それ以外の学校はどうなるのかを聞かれると、命は全て助かるようにしているが、できるだけ高台に逃げた方が良く、チャンスがあれば、高台へ移転した方が良いとなる。内々では色々な方面と話をしているが、いつまでといった目途は全く立っていない。</p>
<p>委員</p>	<p>“南海トラフ巨大地震への対応”ということを書き込めばいいのではないか。</p>

教育長	<p>書き方が弱いので、“現状では命を守る対策を一旦は立てているが、今後の対応策として・・・をしていく。”のような書き方はできないのか。移転する学校がある一方で、そういった対策が立てられていない学校では心配だと思う。書き方が非常に難しく悩ましい。</p> <p>考え方として、できるだけ好ましい環境を作っていくこととしているが、それは県立学校の話である。しかし、市町村立学校では、移転等の計画が全く見えない学校もたくさんある。例えば、須崎地区で言えば、隣に須崎中学校があるにも関わらず、それを放っておいて須崎高校は高台へ移転するのかということにもなる。それも議論しなければならないが、そういった話が出てくる。</p> <p>とりあえず現状では、県立であっても市町村立であっても、津波が来た時に命だけは助かる状態にはある。</p>
委員	その第1ステップのことを明確に書いてはどうか。
教育長	不安を与えないような書き方で書き込むようにする。
委員	高知南中・高校及び須崎高校では、両方とも備えということで書いていると思う。
教育長	県立学校でさえ、できるだけ早く高台に行きたいが、予算措置だけでも大変である。市町村立はもっと大変だと思う。
委員長	清水高校もすぐ避難できる状態にはあるが、その後の再開が出来ないかもしれない。また、安芸高校も難しい環境にある。
教育長	<p>一番難しい学校が安芸高校だと思う。</p> <p>津波は東部自動車道ができるとそこで止まると思うが、それまでに完成していなければ、内陸まで被害を及ぼすことになる。</p> <p>現在、安芸高校では南舎を建て替え、生徒が避難する北舎の耐震化工事をしており命は守れるが、海に面していることから恐怖感は相当ある。</p>
委員長	安芸高校は地盤沈下するのか。
教育長	地盤自体は丈夫ではないが、深くまで杭を打っており、地盤沈下はあまりしないと想定している。
委員長	安芸地区には、昭和の南海大地震の記録があまりないことから、津波被害が少なかったと思われる。
教育長	おっしゃるとおり安芸地区は津波被害があまりなかったようだが、浦の内地区や須崎地区では被害が大きかった。また高知市中央部は、地盤沈下して長期浸水している。
委員長	それらを踏まえても、高知南中・高校は地盤沈下して長期浸水すると同時に学校自体が使い物にならなくなるのが予想される。
教育長	浦戸湾内なので、外洋からの直接の津波ではないだろうが、湾内では他の市街地よりも近い所にあるし、船や石油タンク等、校舎へダメージを与えるようなものがぶつかってくるのが想定される。
委員長	高知工業高校はどうか。
教育長	高知工業高校も高知南中・高校と同じように津波が来て、地盤沈下し長期浸水すると想定されている。ただし、津波が高知工業高校に到達するまでに建物が

	<p>あるので、漂流物による被害は少ないと思われる。</p> <p>また、今のところ高知工業高校の規模の学校を移転させる土地は無く、今後新しく校舎を建てる場合には、高い下駄を履かせるなどの対応しかないと思っている。</p>
委員長	<p>須崎地区の統合のように、今後宿毛高校と宿毛工業高校の話も出てくるのではないか。</p>
教育長	<p>他にも津波浸水が心配されるのは、宿毛高校、清水高校、海洋高校がある。特に海洋高校は、海岸近くに存在しないといけないため、悩み所である。</p>
委員長	<p>浸水しても、復旧して学校を再開させなければならないが、その費用も莫大であると思う。</p>
教育長	<p>学校がどれくらいの期間、避難所となるか分からないが、学校再開が地域住民の復興への希望にもなるので、学校は早く再開するに越したことはないとは東北の視察で感じた。</p>
委員長	<p>須崎高校・須崎工業高校はこのような方法しかないように思うが、いかがか。このような方向性で異論はないだろうか。</p>
教育長	<p>委員長がおっしゃったように、統合後の学校運営の難しさはあると思うので、そこはきちんと詰めたい。</p>
委員	<p>この2校が統合されると郡部としては、大規模校になるので、部活動が活性化することを始め、うまく魅力が出せるといい。</p>
教育長	<p>部活動は、3学級と6学級でやるのでは全く違ってくる。</p>
委員	<p>部活動がうまく活性化するように背後で支援して、高知市内の学校と変わらない部活動ができる学校にする必要がある。</p>
委員長	<p>須崎地区の場合は、その奥にある津野町などの優秀な生徒が地元に残っている可能性が高く、その生徒たちが将来の希望を失わないようにしなければならない。</p>
教育長	<p>統合とは言っても、環境整備に大きな予算が必要である。</p> <p>今は、国の経済対策でお金を使っており、いい時期ではあるのだが、これは借金によるものなので、いずれ財布のひもを絞る時期が来る。その時に統合が一緒になると推進が難しくなると思う。</p>
委員長	<p>学校への進入路を付けるにも結構な費用がかかると思われる。</p>
教育長	<p>かかると思うが、道を付けること自体は地元からは喜ばれる話だと思う。</p>
委員長	<p>須崎工業高校の場所は、住民にとって安全の最後の砦ではないだろうか。</p>
教育長	<p>警察や役場のある場所も安全だろうが、市街地は全滅に近い状態だと思われる。</p>
教育長	<p>須崎高校は、新莊川に近く非常に危険な場所である。校舎自体は高く、屋上に上がればいいことだが、それで安全が確保できない場合には、山に逃げるようにしている。</p>
委員長	<p>細かいことは検討してもらわなければならないが、須崎高校・須崎工業高校はこのような方向性でよろしいか。</p>
各委員	<p>(異議なし)</p>

教育長	中央部については、期間も長くかかり、新しく作ろうとする学校のレベルも高く、生徒数の多い学校が無くなることで市民・県民への影響も大きいなど、大変な取組内容なので、しっかり取り組まなければならない。
委員長	現在、高知南中学校へ通う生徒には地域性があるが、高知西中学校になると幅広い地域から来ることになると思われる。
教育長	おっしゃるとおりで、高知南中学校は地域性のある学校と言えるが、高知西中学校になると広域から生徒が集まると思う。
委員長	本日協議した高知南中学校・高校と高知西高校のことと須崎高校と須崎工業高校の2つの地区のことについて、教育委員会としてこの方向で進めていくこととしてよろしいか。
各委員	(異議なし)
委員長	本日の協議はこれまでとし、次回(1/31)には、全体的なことも含めて協議したい。